

細径気管支鏡を用いて摘出した犬猫の気道異物の4症例

相模が丘動物病院 呼吸器科

○城下幸仁

症例1：雑種猫、7歳、メス、体重2.90kg。主訴は急性呼吸困難および気管内塊状陰影。気管をほぼ閉塞する黄色調の固い異物を確認しキュレットにて摘出した。異物は直径10mmの家庭栽培用のオアシスの一部であった。 症例2：雑種猫、13歳、メス、体重3.22kg。主訴は急性の喘鳴および気管内塊状陰影。気管内に大きな棘のある固い異物を確認し把持鉗子にて摘出した。異物は魚骨の一部であった。 症例3：シーザー、5歳、メス、体重5.98kg。主訴は浅速呼吸、急性咳漱、胸部異常陰影。右中葉気管支内に3～4個の茶褐色の柔軟な粒状異物を確認し吸引チューブとキュレットにて摘出した。異物はパンの耳であった。 症例4：アメリカンコッカースパニエル、7歳、メス、体重5.72kg。主訴は急性咳漱および限局性胸部異常陰影。右後葉区域気管支に憩室を形成し内部に茶褐色の柔軟な塊状異物が充満していた。チャンネル洗浄用ブラシにて粉碎し浅麻酔下に喀出させた。異物は缶フード片であった。